

イーストスプリング・
インドネシア債券オープン
(毎月決算型)

追加型投信／海外／債券

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主としてインドネシアの債券に投資を行う投資信託証券に投資を行い、インカム・ゲインの確保および中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

作成対象期間 2017年8月19日～2018年2月19日

第65期 2017年9月19日決算 第68期 2017年12月18日決算

第66期 2017年10月18日決算 第69期 2018年1月18日決算

第67期 2017年11月20日決算 第70期 2018年2月19日決算

日経新聞掲載名: ネシア債

第70期末	基準価額	4,993円
	純資産総額	29,545百万円
第65期～ 第70期	騰落率	-1.0%
	分配金合計	330円

(注)騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

<http://www.eastspring.co.jp/>

[お問い合わせ先]

電話番号：03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧、ダウンロードすることができます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

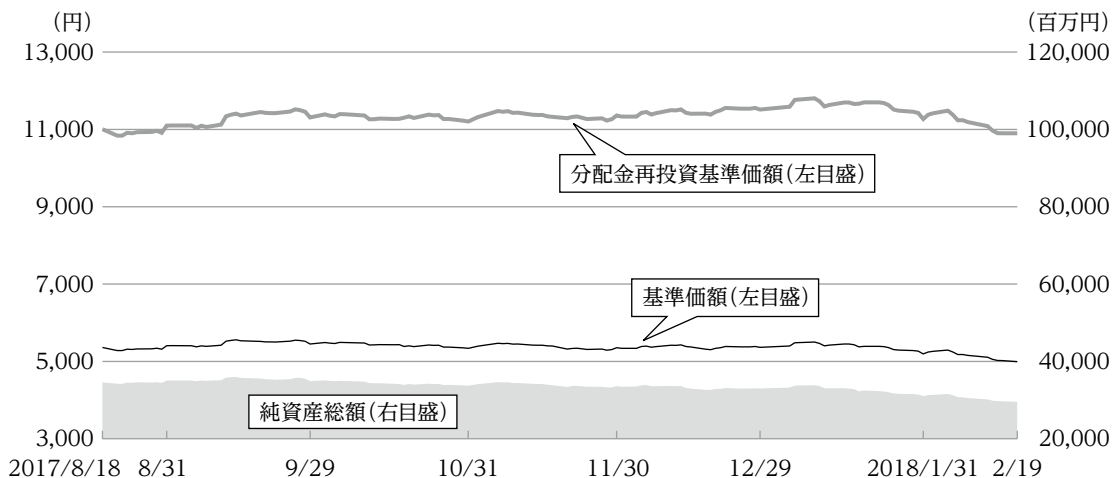
<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

ホームページにアクセス⇒「運用状況」のタブを選択⇒当ファンドの「運用報告書(全体版)」を選択

運用経過

基準価額等の推移について

(2017年8月19日～2018年2月19日)



第 65 期 首	5,361円
第 70 期 末	4,993円 (既払分配金330円)
騰 落 率	-1.0% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は下落しました。

下落要因



・インドネシアルピアが対円で下落したこと。

1 万口当たりの費用明細

(2017年8月19日～2018年2月19日)

項目	第65期～第70期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	33円	0.619%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 作成期間の平均基準価額は、5,351円です。
(投信会社)	(12)	(0.217)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(21)	(0.389)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.013)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	0	0.005	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	(0)	(0.003)	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
(その他)	(0)	(0.000)	余資運用に係る費用（マイナス金利相当額）
合計	33	0.624	

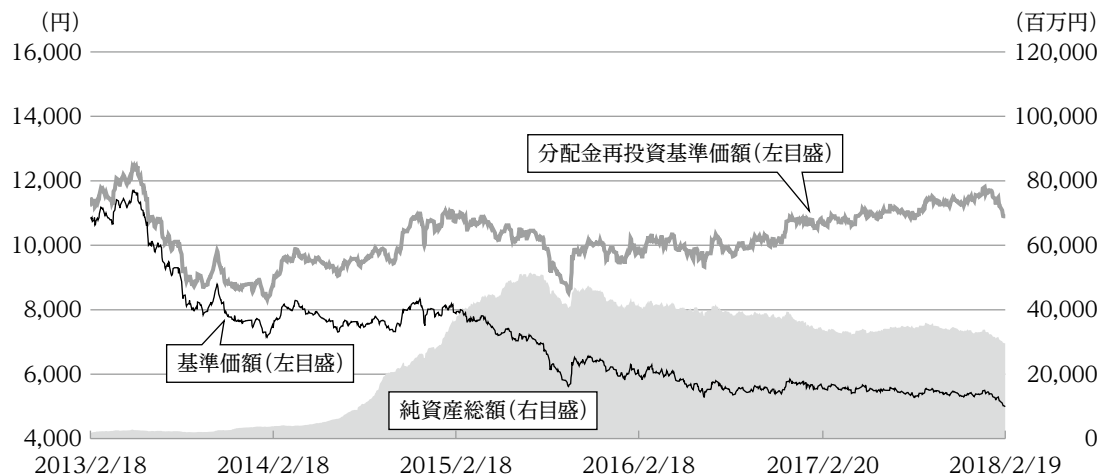
(注1) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

最近5年間の基準価額等の推移について (2013年2月18日～2018年2月19日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

決算日		2013/2/18	2014/2/18	2015/2/18	2016/2/18	2017/2/20	2018/2/19
基準価額	(円)	10,858	7,432	7,883	6,007	5,546	4,993
期間分配金合計（税引前）	(円)	—	970	1,200	1,200	880	690
分配金再投資基準価額の騰落率(%)		—	-23.4	23.8	-8.7	7.7	2.2
純資産総額	(百万円)	1,785	3,775	36,591	41,088	33,541	29,545

*当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

インドネシア債券市場

2017年8月から2ヵ月連続でインドネシア中央銀行（BI）が利下げを決定したことを受けて、インドネシア債券の利回りは低下（価格は上昇）しました。しかし、米国の税制改革への期待や主要銀行による金融政策正常化などの予測を背景に、世界的に債券利回りが上昇（価格は下落）したことから、インドネシア債券の利回りも10月下旬にかけて上昇傾向となりました。その後、米国の利上げ観測が高まりましたが、インドネシア債券市場における投資家からの需要は根強く、利回りは低下しました。12月から2018年1月上旬にかけては大手格付会社フィッチ・レーティングスによるインドネシア国債の格上げや、外国人投資家からの資金流入を背景に利回りはさらに低下しました。しかし、2月上旬に米国のインフレ率上昇への懸念から米国債利回りが急上昇し、世界的にリスク回避姿勢が強まると、インドネシア債券市場からも外国人投資家を中心に資金流出がみられ、当作成期末にかけて利回りは上昇しました。

為替市場

外国人投資家からの債券市場への資金流入などを背景に当作成期初から対米ドルで堅調に推移していたインドネシアルピアは、2017

年9月下旬には米国の利上げ観測や朝鮮半島の緊張の高まりなどから下落しました。その後は米国金利の先高観などが強まり、ルピアは上値の重い展開となりましたが、2018年1月に入り、外国人投資家の資金流入などを背景にルピア買いが強まりました。その後当作成期末にかけて、米国長期金利の上昇や世界的な株価急落を受けたリスク回避姿勢が強まり、ルピアは再び下落しました。一方、日銀の金融政策の正常化観測や世界的株安から当作成期末にかけてリスク回避の円高が進み、対円ではルピアは大幅安となりました。

国内債券市場

2017年9月末に米国債利回りの上昇や日本国債格下げの可能性が報道されたことから、日本国債利回りは一時上昇（価格は下落）しましたが、その後は手掛かり材料難の中、もみ合いとなりました。2018年1月には、世界的株高や原油高を背景としたリスク選好の強まりや、超長期国債買い入れオペの減額などを受けて利回りは上昇しましたが、2月に入り、米国長期金利の急上昇を受けて世界的に株価が急落し、リスク回避姿勢が強まったことから、日本国債利回りは低下（価格は上昇）しました。

ポートフォリオについて

当ファンド

主要な投資対象のひとつであるイーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド（以下「インドネシア・ボンド・マスター・ファンド」ということがあります。）の組入比率を高位に保つよう運用しました。

インドネシア・ボンド・マスター・ファンド

主として、インドネシアの債券に投資を行い、インカムゲインの確保とトータル・リター

ンの最大化を目指して運用を行いました。当作成期は債券価格は上昇したものの、通貨ルピアが対円で下落したことがマイナス要因となりました。

イーストスプリング国内債券ファンド （国債）追加型Ⅰ（適格機関投資家向け）

主としてデュレーションをコントロールすることによって、ベンチマークであるICE BofAML 国債インデックス（1-10年債）を中長期的に上回ることを目指して運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり、税引前）

項目	第65期	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
	2017年8月19日 ~2017年9月19日	2017年9月20日 ~2017年10月18日	2017年10月19日 ~2017年11月20日	2017年11月21日 ~2017年12月18日	2017年12月19日 ~2018年1月18日	2018年1月19日 ~2018年2月19日
当期分配金 (円)	60	60	60	60	60	30
(対基準価額比率) (%)	1.076	1.102	1.115	1.116	1.104	0.597
当期の収益 (円)	35	31	29	33	47	29
当期の収益以外 (円)	24	28	30	26	12	0
翌期繰越分配対象額 (円)	480	452	423	396	385	385

(注1) 「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) -印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

当ファンド

主要な投資対象のひとつであるインドネシア・ボンド・マスター・ファンドへの組入比率を高位に保つことを基本とします。

インドネシア・ボンド・マスター・ファンド

米国債利回りが上昇する中で、インドネシア中央銀行（B I）は政策金利を2017年10月以降据え置いており、今後の利下げ余地が限定的であることを強調しています。食料品価格が安定し、電気やガソリンなどの統制価格の変更がなければ、今後もインフレ率はB Iの目標レンジ内で安定的に推移すると思われます。先進国の中央銀行が金融正常化を進める過程で、予想以上にB Iが引き締め姿勢を強めた場合や原油価格が高騰する場合などは、外国人投資家の保有比率が高いインドネシア債券市場では市場変動性が高まるリスクも考えられ、注意が必要です。一方で、国内のファンダメンタルズは良好であり、利回り

が大幅に上昇するような局面があれば割安な水準での組入れの好機となるとみています。市場の変動局面では機動的にデュレーションをコントロールし、市場を取り巻くリスクに注意を払いながら運用を行っていく方針です。

イーストスプリング国内債券ファンド （国債）追加型I（適格機関投資家向け）

日本国債は日銀の金融緩和を背景に今後も利回りは低位で安定的に推移するものとみています。しかし、国内債券市場の流動性は低下しており、海外金利の動向などで市場が一時的に不安定化する可能性もあり注意が必要です。今後もファンダメンタルズ分析、金利動向予測、イールドカーブ分析等を行いベンチマークであるICE BofAML 国債インデックス（1-10年債）を中長期的に上回ることを目指した運用を行っていく所存です。

お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

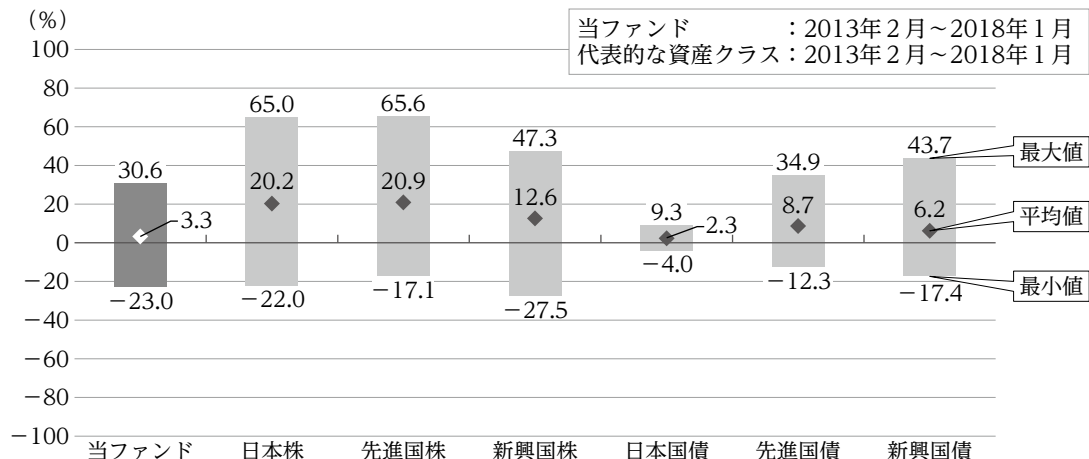
商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	無期限（2012年2月29日設定）
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主としてインドネシアの債券に投資を行うことにより、インカム・ゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	外国投資信託「イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド」（円建て）の受益証券およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ⅰ（適格機関投資家向け）」の受益証券（振替受益権を含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	以下の投資制限のもと運用を行います。 ・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ・外貨建資産への直接投資は行いません。 ・株式への直接投資は行いません。
分配方針	毎決算時（毎月18日。休業日の場合は翌営業日。）に、基準価額水準・市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないこともあります。

指数に関して

当ファンドの投資対象である「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ⅰ（適格機関投資家向け）」のベンチマークについて

ICEデータ・サービスおよびその関連会社は、提供するインデックスデータに関してその継続性、正確性、完全性を保証するものではなく、当該データ提供に係り発生し得る損害についてもその事由の如何を問わず責任を負うものではありません。

(参考情報) 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスについて、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数 (TOPIX) の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
新興国債	J.P. Morgan Global Emerging Markets ローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

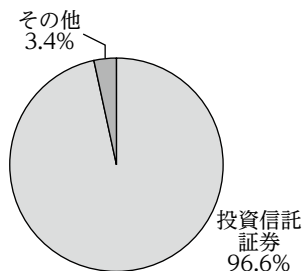
組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

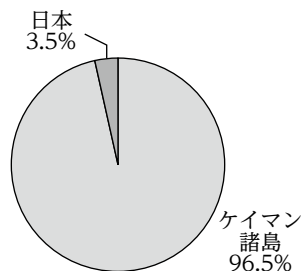
ファンド名	第70期末 2018年2月19日
イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド	96.5%
イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)	0.1%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

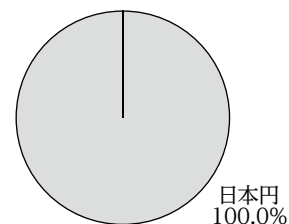
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

純資産等

項目	第65期末 2017年9月19日	第66期末 2017年10月18日	第67期末 2017年11月20日	第68期末 2017年12月18日	第69期末 2018年1月18日	第70期末 2018年2月19日
純資産総額 (円)	35,571,684,605	33,908,096,661	33,395,675,033	32,628,675,464	32,244,711,784	29,545,862,235
受益権総口数 (口)	64,476,768,202	62,960,960,668	62,768,826,164	61,372,187,715	59,979,964,854	59,175,069,190
1万口当たり基準価額(円)	5,517	5,386	5,320	5,317	5,376	4,993

*当作成期中(第65期~第70期)において追加設定元本額は8,572,504,284円、一部解約元本額は13,916,012,021円です。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド

○基準価額(1口当たり純資産価格)の推移

(2016年1月1日～2016年12月31日)



○1万口当たりの費用明細

(2016年1月1日～2016年12月31日)

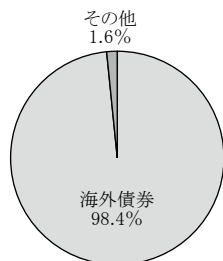
当該期間のFinancial Statements(監査済み)には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

○組入上位10銘柄(組入銘柄数:35銘柄)

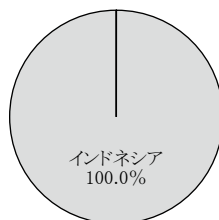
(2016年12月31日現在)

	銘柄名	種別	利率	償還日	国・地域	比率
1	INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.375%	2024/3/15	インドネシア	11.7%
2	INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.375%	2026/9/15	インドネシア	8.1%
3	INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.250%	2021/7/15	インドネシア	8.0%
4	INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.375%	2034/3/15	インドネシア	7.2%
5	INDONESIA GOVERNMENT	国債	9.000%	2029/3/15	インドネシア	7.1%
6	INDONESIA GOVERNMENT	国債	7.875%	2019/4/15	インドネシア	4.8%
7	INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.750%	2031/5/15	インドネシア	4.5%
8	INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.250%	2036/5/15	インドネシア	4.0%
9	INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.250%	2032/6/15	インドネシア	3.2%
10	INDONESIA GOVERNMENT	国債	6.625%	2033/5/15	インドネシア	3.0%

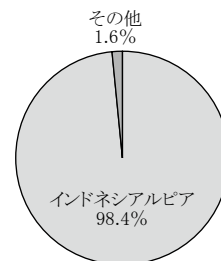
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの(監査済みおよび同時点の関連データを含む)を使用しています。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

(注3) インドネシアルピア以外の通貨建ての債券に投資を行う場合には、原則として、実質的にインドネシアルピア建てとなるよう為替取引を行いますので、通貨別配分は当該為替取引を考慮し算出しています。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)

○基準価額の推移

(2016年2月26日～2017年2月27日)



○1万口当たりの費用明細

(2016年2月26日～2017年2月27日)

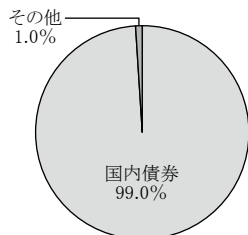
項目	金額	比率
(a) 信託報酬	24円	0.217%
(投信会社)	(15)	(0.141)
(販売会社)	(2)	(0.022)
(受託会社)	(6)	(0.054)
(b) その他費用	6	0.052
(監査費用)	(6)	(0.051)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	30	0.269

○組入上位10銘柄(組入銘柄数:21銘柄)

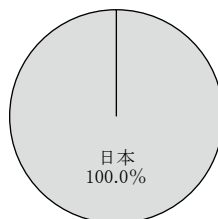
(2017年2月27日現在)

	銘柄名	種別	利率	償還日	国・地域	比率
1	第285回利付国債(10年)	国債	1.7%	2017/3/20	日本	9.8%
2	第80回利付国債(20年)	国債	2.1%	2025/6/20	日本	8.4%
3	第87回利付国債(20年)	国債	2.2%	2026/3/20	日本	8.1%
4	第63回利付国債(20年)	国債	1.8%	2023/6/20	日本	6.9%
5	第48回利付国債(20年)	国債	2.5%	2020/12/21	日本	6.8%
6	第311回利付国債(10年)	国債	0.8%	2020/9/20	日本	6.4%
7	第67回利付国債(20年)	国債	1.9%	2024/3/20	日本	6.3%
8	第69回利付国債(20年)	国債	2.1%	2024/3/20	日本	5.7%
9	第53回利付国債(20年)	国債	2.1%	2021/12/20	日本	5.4%
10	第47回利付国債(20年)	国債	2.2%	2020/9/21	日本	5.3%

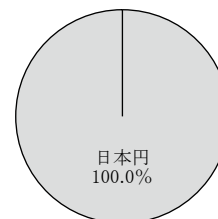
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 1万口当たりの費用明細の項目の概要および注記については、2ページの「1万口当たりの費用明細」の記載をご参照ください。
 (注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。